

一般社団法人 日本リハビリテーション工学協会

2014年度事業計画

日本リハビリテーション工学協会 2014年度事業方針

2014年度は8月24日から27日まで広島国際大学において第29回リハ工学カンファレンスを開催する予定です。会期中に一般社団法人移行後2回目となる社員総会を開催いたしますので、皆様のご参加をお願いいたします。また例年通り協会誌の発行を4回、福祉機器コンテスト2014を従前のスケジュールで実施する予定です。

分科会活動としてはSIGの位置づけを明確化し、法人内SIGとなるための条件整備を進めます。支部としては東北支部の設立に向けて準備を進める予定です。第3回となる東日本大震災復興支援リハ工学講習会も継続していく所存です。

また国際協力では徳島アグリーメントに基づく北米、EU、豪州に加え、アジア各国との連携強化に向けて、RESKO、i-CREATE等に本協会の代表を派遣する計画を立てています。

今後とも公益法人化にむけて準備を進める努力をしまりますので、皆様のご協力とご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

会長 繁成 剛

1. 事業

1-1. リハ工学カンファレンス関連（担当理事：剣持悟・山形茂生）

- 1) 第29回リハ工学カンファレンス in ひろしまを開催する。
 - ・会期：2014年8月24日（日）～27日（水）
 - ・会場：24日 広島国際大学 東広島キャンパス（広島県東広島市）
25-27日 広島国際大学 呉キャンパス（広島県呉市）
 - ・大会テーマ：ひろしまからの発信
 - ・大会長：秋山 實利（広島国際大学 学長）
 - ・実行委員長：南山 求（広島国際大学総合リハビリテーション学部 学部長）
- 2) 第30回リハ工学カンファレンス in 沖縄の開催準備を行う。
 - ・会期：2015年11月13日（金）～15日（日）
 - ・会場：沖縄県総合福祉センター（沖縄県那覇市）
 - ・大会テーマ：未定
 - ・大会長：瀧下修一（沖縄リハビリテーション福祉学院 学院長）
 - ・実行委員長：金城知子（沖縄リハビリテーション福祉学院 作業療法学科長）
- 3) 今後のカンファレンスへの取り組み
 - ・会員数が少ないため、協会主導で煮詰めていく必要がある。継続的なフォローも必要である。
 - ・沖縄県との共催事業の可能性もあるため、9月までに企画をまとめていく。

1-2. 福祉機器コンテスト関連（担当理事：元田英一）

- 1) 福祉機器コンテスト2014
 - 第一次選考会 2014年7月5日（土）応募作品の書類・ビデオ審査
於：横浜市総合リハセンター
 - 第二次選考会 2014年8月26日（火）
機器開発部門：プレゼンテーション審査、学生部門：書類・ビデオ審査

- 於：リハ工学カンファレンス会場（8/25～27広島県呉市）
- 発表・表彰：第41回国際福祉機器展H.C.R. 2014会場内 10月3日（金）
 - 展示・広報（予定）：
 - 第41回国際福祉機器展H.C.R. 2014 10月1日（水）～3日（金）
（表彰式／受賞作品の実物展示）
 - 第16回西日本国際福祉機器展P.P.C. 2014(北九州市) 11月7日（金）～9日（日）
（受賞作品の実物展示）

2) 福祉機器コンテスト2015

- 特別協賛：（予定）フランスベッド株式会社
- 協 賛：（予定）株式会社ケーブ、株式会社松本義肢製作所、東名ブレース株式会社
株式会社 今仙技術研究所、株式会社 モリトー、川村義肢株式会社、株式会社有菌製作所
- 後 援：（予定）厚生労働省、経済産業省、公益財団法人テクノエイド協会
独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）
日本福祉用具・生活支援用具協会、一般社団法人日本作業療法士協会

- 福祉機器コンテスト2015選考委員会の設置（2015年4月1日～）
- 募集対象：機器開発部門、学生部門
- 広報開始・応募要綱配布：4月中旬
- 募集期間：機器開発部門 5月～6月、学生部門 5月～7月
- 展示・広報（予定）： バリアフリー2015（大阪）展示会（広報） 4月

3) コンテスト発展のための取り組み

- ・ コンテストの企画内容及び運営方法を見直しする。
- ・ 広報活動はインターネットをより活用する事を検討する。

1-3. 協会誌関連（担当理事：高原光恵）

1) 以下の協会誌を発行予定

- ・ vol. 29 No. 3 2014/8 特集「人工ボディ」
- ・ vol. 29 No. 4 2014/11 特集「障害者差別—知る・向き合う・取り払う—」
- ・ vol. 30 No. 1 2015/2 特集「協会誌 30 記念号」（仮題）
- ・ vol. 30 No. 2 2015/5 特集「協会誌 30 記念号（その2）」（仮題）

2) 編集委員会の開催

年 4 回、協会誌の発行に合わせて編集委員会を開催するため、会場の確保を行う。そのほか随時、メーリングリストにて編集作業の進捗状況について情報交換を行う。

3) 査読体制

過年度に引き続き、さらに査読体制の再構築を図る。査読者の確保、査読依頼の方法（時期等）について検討する。査読者の負担軽減について考慮するとともに、投稿時から結果を伝えるまでの時間短縮を図る。査読に時間がかかる場合には投稿者への経過報告を行う。

4) 電子化の件

協会誌の電子化について、情報保障面や経費面、データベースの整理方法など、具体的に検討を行う。

1-4. 分科会・専門委員会関連（担当理事：岩崎満男）

1) 支部の地域区割り及び既設支部への活動支援

2014年度は、支部設置方針を見直して、設置申請方式から地域区割り方式に変更する。それにより、会員はいずれかの地域の支部に所属し、各地域でのリハ工学に関わる人的ネットワークを構築するために、新規支部の設置準備に向けた組織化と規定整備を行う。

なお、既設支部に対しても、継続的な活動が行えるよう、活動経費として支部活動金の配分を行いたい。

2) SIGとの協力関係及び活動支援

現在設立されている10SIGは、それぞれ主体的に活動内容を企画・実施しつつ、時に複数SIG間で協同の事業を行っている。主な関心領域やメンバーの専門領域、そして企画の進め方も異なる多様性に富んだ10グループの活動組織は、当法人が企画する事業を実現化する際に大変頼りになるパートナーである。2014年度は、公益法人化を進めるにあたって、各事業の公益性や会計などの透明性・健全性、組織の体力、永続性などが審査される予定のため、分科会活動としての各SIGの位置づけを明確化するための取組みとして、連結決算とする法人内部のSIGについての条件整備を行う予定である。

また、当法人が企画・参画・運営する事業（講習会やコンテスト、協会誌の査読など）実施に際して、積極的にSIGの協力を仰ぎながら法人としての活動を活性化していきたい。そのような協力関係を維持し、さまざまな運営規模および運営方法であるSIGの活動に対して、より柔軟に支援できるようにするため、SIGへの活動費を配分する。

3) 東日本大震災復興支援に関する専門委員会の活動

2013年度に引き続き活動を行う。また、その他の委員会の活動支援を2014年度も継続して行う。具体的には、委員会が企画する視察やそこから見出されるニーズに基づく人的および物的支援活動、さらに活動を広げることにつながる講習会、その他、必要と思われる活動について、広報および運営協力、経費に関わる援助を行ってきたい。ただし、年度途中で委員会から新たな活動のアイデアが出された場合には、前述の活動継続にはこだわらず、その時期に最も求められる活動を優先して実施できるよう、必要に応じて関連組織に協力を求めることも積極的に行いたい。

1-5. 企画推進事業（担当理事：剣持悟・宮野秀樹・金井謙介）

1) 広報活動強化

以下の展示会へブースを設定し、広報活動を実施する。

- ・第41回国際福祉機器展(H.C.R.2014) (2014年10月1日(水)～10月3日(金) 於：東京ビッグサイト(東京)) ワークショップにて、リハビリテーション基礎講座をSIGの協力を得て開催する。
- ・バリアフリー2015 (2015年4月16日(木)～18日(土) 於：インテックス大阪(大阪))
- ・第49回日本作業療法学会(神戸市、2015年6月19日(金)～21日(日))における広報
- ・その他各地域で行われている福祉機器展への出展(第16回西日本国際福祉機器展、高知福祉機器展など。地域支部やSIGとの協力を視野に。)

2) セミナー開催

- ・第41回国際福祉機器展(H.C.R.2014)(東京)での出展社ワークショップ企画・開催。
- ・第16回西日本国際福祉機器展(P.P.C.2014)(北九州)セミナーの企画・開催(九州・沖縄・山口支部と調整・協力の上、実施)。
- ・バリアフリー2015(大阪市、2015年4月16日(木)～18日(土))でのワークショップを企画・開催(関西支部と調整・協力の上、実施)。
- ・難病看護学会とのコラボレーションセミナーの企画・開催：2014年8月28日(木)に広島に於いて開催予定(担当：井村、剣持、宮野、金井)。

3) 東日本復興支援に関する講習会の開催

東北被災地域において必要とされる講習会やセミナーを各SIGの協力を仰ぎながら企画し、リハビリテーション工学の啓発、技術伝承を行い、東北を元気にする活動を行う。

- ・SIG単独の講習会・セミナー
- ・数SIG合同のワークショップ・セミナー

対象は専門職向けやリハ工学に興味のある方向けなど

開催候補地：宮城県（予定）

4) その他

- ・「子ども広場でひろげよう」の開催

第41回国際福祉機器展（H.C.R.2014）（東京）において車いすトレーニングイベント「子ども広場でひろげよう」を開催する。会場内に設営された子ども広場にてインストラクター（講師）による基本的かつ実践的な車椅子の操作方法を子ども達に伝えて、参加者にとって自分の生活の中で最適な車椅子の選定の機会となる。医療関係者に対しても小さな頃から車椅子の必要性を感じていただき、よりよい環境を整えていくことが出来ることなどを伝えていく。

- ・航空関係者のための車椅子取り扱い講習会の開催

車椅子使用者が航空機を利用するに当たって、輸送中に車椅子が破損するという問題がある。そこで第7回日本身体障害者補助犬学会 学術大会（2014年9月20日（土）～21日（日）中部国際空港）において航空会社職員向けに講習会を企画している。プログラム委員として実行委員組織に入り、連絡調整を行う。同学会で協会の広報も行う予定である。

- ・頸髄損傷者連絡会との第4回合同シンポジウムの開催検討。
- ・30周年記念行事等の企画検討。

1-6. 国際関連事業（担当理事：畠中規・古井透）

- ・海外関連団体等からの問い合わせへの対応を行う。
- ・RESJA 英語公式書類の英語専門家による Review を実施する。
- ・アジア各国との連携強化に向けて、RESKO、i-CREATE 等のカンファレンスへ RESJA 代表を派遣する。
- ・沖縄カンファレンスでの国際セミナー（シンポジウム等）を検討する。

2. 総務

2-1. 規則・選挙（担当理事：鈴木聖貴）

- ・2015年度新代議員・役員候補者選挙を行なう。
- ・公益化に向けて、各種施行細則などの規約の整備を行なう。

2-2. 財務（担当理事：沖川悦三）

公益法人化を目指した財務管理体制を確立し、財務管理を遂行する。

2-3. 総会・理事会等会議の開催、他（担当理事：水澤二郎）

協会運営に必要な以下の会議・事業を行う。

1) 2014年度定時社員総会の開催

- ・日時：2014年8月26日（火） 11:50～13:00
- ・場所：広島国際大学 呉キャンパス（第29回リハ工学カンファレンス会場）

2) 2014年度（法人）理事会の開催

7月、8月、12月、3月、5～6月に実施する予定

2-4. 広報・渉外（担当理事：塚田敦史）

- ・一般社団法人となり協会の活動体制も変わってきているので、当今の協会に併せたリーフレット改訂の検討を行う
- ・海外向けに活動を知ってもらおう媒体の一步として、アニュアルレポート（年鑑）をデジタルファイルにて、発行できないかを検討する。

2-5. 事務局（事務局統括理事：沖川悦三）

1) 事務局運営

法人としての事務局を運営し、法人会計の整備を進める。

2) ホームページの運営管理（担当理事：沖川悦三）

会員サービスの一環とし、今まで以上のホームページ掲載内容の充実を図り、迅速な対応をめざす。

3) メールニュースの配信

メールニュースは月1回以上の配信を原則として行う。

3. 後援・協賛事業

後援・協賛予定（主催団体と内容）は下記のとおりである。

（*：新規）

No.		団体名	開催日程	内容
1	後援	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団	2014/7/11～12	ヨコハマ・ヒューマン&テクノロジーランド2014
2	後援	広島国際大学	2014/7/13	2014年度広島国際大学健康フェア
3	後援	バイオフィリア リハビリテーション学会	2014/8/23～24	第18回バイオフィリアリハビリテーション学会大会
4	協賛	特定非営利活動法人 ヒューマンインタフェース学会	2014/9/9～12	ヒューマンインタフェースシンポジウム2014
5	協賛	公益社団法人計測自動制御学会	2014/9/17～19	ライフエンジニアリング部門シンポジウム2014（LE2014）
6	後援 *	日本身体障害者補助犬学会	2014/9/20～21	日本身体障害者補助犬学会第7回学術大会
7	後援	一般社団法人ナンフェス	2014/9/23	ウォーク&ランフェスタ2014
8	協賛	西日本国際福祉機器展実行委員会	2014/11/7～9	PPC2014第16回西日本国際福祉機器展
9	協賛	バイオメカニズム学会	2014/11/8～9	第35回バイオメカニズム学術講演会
10	後援	川村義肢株式会社・社会福祉法人日本介助犬協会・大東市総合文化センター	2013/12/7	介助犬のひろばin大東
11	協賛	公益社団法人計測自動制御学会システムインテグレーション部門	2014/12/14～17	第15回SICEシステムインテグレーション部門講演会

（以降、随時追加）

公益認定申請の延期について

2013年度社員総会において、公益認定申請手続きに着手する旨提案し承認され、「国・都道府県公式公益法人行政総合情報サイト（公益法人 information）」へ登録を行い、電子申請手続きを開始した。現在、申請書、基本情報、組織、事業の一覧、公益目的事業について5項目（①リハ工学カンファレンスの開催、②福祉機器コンテストの開催、③リハビリテーションエンジニアリングの編集・発行、④国際協力、⑤支部活動）を登録した。申請にはこの他に、事業毎の財務状況を説明する多数の別表類の記入が必要であるが、これらは極めて専門性が高い難解なもので、会計士と相談のうえ、司法書士事務所等への委託が必要と考える。

また、公益認定基準18項目の中に「2.公益目的事業を行うのに必要な経理的基礎及び技術的能力を有するものであること」が定められている。当協会は2013年度予算案に引き続き2014年度予算案においても収支赤字を計上している。このままの状況が続けば、やがては破産状態となることを意味する予算案であり、このような状況ではこの必要な経理的基礎を有しているとはいえない状況にある。

一方、2014年3月末で既設社団・財団法人の公益移行手続きが終了したが、全国で15000の当該法人が一般法人を選択したとの報道があった。これは、現在の規定が小規模法人に対しては厳しい遵守規定となっているからではないかとの指摘があり、当協会規模で無理に公益認定を受けても、その地位を維持していけるのかということが懸念される。一旦公益認定を受けた後に不適切な対応を行うことは、社会的にも大きな瑕疵を残すことになる。

このような観点から、公益認定については、1)当協会の基礎的体力が増えるか、2)制度改定があり小規模法人に対する特例措置がとられるか、を待つべきと判断した。